



平成 23 年 6 月 3 日

各 位

会 社 名：株式会社トプコン
代表者名：取締役社長 横倉 隆
(コード番号：7732 東証第一部)
問合せ先：経理グループ統括
取締役兼常務執行役員 小川 隆之
(電話 03(3558)2536)

業績予想値に関するお知らせ

平成 23 年 4 月 28 日に公表致しました「平成 23 年 3 月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」において、平成 24 年 3 月期の業績予想を未定としておりましたが、平成 23 年 6 月 3 日開催の取締役会において、下記の通り平成 24 年 3 月期の業績予想を決定致しましたのでお知らせ致します。

記

1. 平成 24 年 3 月期 連結業績予想数値

(1) 第 2 四半期連結累計期間 (平成 23 年 4 月 1 日～平成 23 年 9 月 30 日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A)	—	—	—	—	—
今回発表予想 (B)	48,500	0	△700	△1,200	△12 円 96 銭
増減額 (B - A)	—	—	—	—	—
増減率 (%)	—	—	—	—	—
(ご参考) 前期第 2 四半期実績	49,688	11	△792	△1,295	△13 円 98 銭

(2) 通期 (平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	—	—	—	—	—
今回発表予想 (B)	100,000	3,000	1,700	800	8 円 64 銭
増減額 (B - A)	—	—	—	—	—
増減率 (%)	—	—	—	—	—
(ご参考) 前年度実績	102,470	1,799	608	△1,288	△13 円 91 銭

(3) 当年度の見通し

平成 24 年 3 月期においては、中東情勢の混乱を背景とする原油価格の上昇が世界経済の成長リスクとなるものの、アメリカは回復傾向が鮮明になり、ヨーロッパは財政危機を抱えながらも堅調に推移しており、新興国は高い経済成長を持続しているため、総じて、世界経済は回復基調を持続するものと予想されます。一方、日本経済は、回復基調を持続していたものの、未曾有の大震災により、当面は下振れ懸念の強い状態が続くものと予想しております。当社においては、先行きの不透明感が強く、厳しい事業環境になるものと予想しております。

このような状況にあつて当社グループは、前年度から事業構造改革プロジェクトをスタートさせ、総原価圧縮戦略を強く推進して、原価低減や固定費の圧縮を実現してまいります。

当年度の連結業績予想につきましては、現時点で想定される震災による影響を考慮し、第 2 四半期連結累計期間では、売上高は 4 8 5 億円（前年同期と比べ△ 2. 4 %減少）、営業利益は 0 億円（前年同期と比べ△ 1 千 1 百万円の減少）、経常利益は△ 7 億円（前年同期と比べ 9 千 2 百万円の増加）、四半期純利益は△ 1 2 億円（前年同期と比べ 9 千 5 百万円の増加）と予想しており、通期では、売上高は 1, 0 0 0 億円（前年度と比べ△ 2. 4 %減少）、営業利益は 3 0 億円（前年度と比べ 6 6. 7 %増加）、経常利益は 1 7 億円（前年度と比べ 1 7 9. 3 %増加）、当期純利益は 8 億円（前年度と比べ 2 0 億 8 千 8 百万円の増加）と予想しております。

なお、通期の業績見通しの前提として、主要な為替レートは、8 0 円／米ドル、1 1 0 円／ユーロと、予想しております。

2. 公表の理由

東北地方太平洋沖地震による当社グループの生産拠点等への物的損害は軽微な範囲に止まりましたが、製造・物流・販売といった経済活動への影響等が非常に不透明であり、それらが当社グループの業績に与える影響に関し、合理的な算定が困難であることから、平成 23 年 3 月期決算短信発表の時点においては、平成 24 年 3 月期の連結業績予想に関しては未定としておりました。依然として、先行きが不透明な状況ではありますが、この度、現時点における入手可能な情報や予測等に基づき、業績予想値を策定致しましたので、公表することと致しました。

※本資料における業績予想は、本資料の発表日現在における将来の事業環境の動向、競合状況、為替変動等に関する予想を前提としており、実際の業績は、今後、様々な要因により、業績予想と異なる場合があります。

以上